



第105回全国高校野球選手権大会

【土浦日大―八学光星】3番手で登板した
八学光星の越智琉介



初登板・越智 逆転信じ力投

〇…八学光星は二枚看板が崩され、3番手でマウンドが上がったのは3年生左腕・越智琉介。九回のソロ被弾による1失点で踏ん張ったが、「やりたいたいが全部できないまま終わってしまった」と唇をかんだ。

今大会初登板。洗平比呂と岡本琉奨の両2年生左腕が2、3回戦で好投し、「2人に負けないように頑張ろう」と闘志に火が付いた。八回は先頭をカーブで見逃し三振に仕留めるなど、逆転を信じるチームのため、必死に腕を振った。

だが、普段は三振を奪えるはずの変化球がなかなか決まらず、ストライクを取りにいった直球を狙われる苦しい投球が続いた。

大観衆の歓声が響くマウンド。「内野の声も聞こえないような周りの声援があり、キャッチャーとの距離が遠くなるような感覚だった」

九回には、内角へ浮き気味に入った直球をバックスクリーンに運ばれ、「びっくりした」と脱帽した。

「大観衆の中で自分のメンタルの弱さが出た」と反省した越智。甲子園を経験し、「もっと成長して親に恩返ししたい」と語った。

指揮官「攻守で完敗」

〇…八学光星の仲井宗基監督は「攻守で完敗と言わざるを得ない。自分たちの力を発揮させてもらえなかった」と敗因を語った。

投手陣が崩れた展開を振り返り、「試合前に先頭打者をどう打

ち取るか、無駄な四死球は出さずに、とバッテリーに声かけしたが…」と悔しげな表情を見せた。

2得点に終わった攻撃面に関しては「大会を通じて中軸がまいち元気がなかった」とした一方、「私の調整のさせ方にミスもあった。選手たちはよく頑張った」とナインをかばった。